
2021年 4月12日

各 位

株式会社 三十三総研

第50回「経営者アンケート」調査結果について

三十三フィナンシャルグループのシンクタンクであります 株式会社三十三総研（代表取締役社長 山本 隆司）では、このたび三重銀行、第三銀行のお取引先企業で構成する三十三ビジネスクラブの会員を対象とした経営者アンケートを実施し、調査結果を取りまとめましたのでご報告申し上げます。

- 経営者アンケート調査の概要 -

1. 調査対象

三十三ビジネスクラブ会員で、資本金1億円以下の三重県下法人企業1,512先

2. 調査方法

郵送によるアンケート調査

3. 調査時期

2021年2月中旬～3月中旬

4. 回収状況

配布数 1,512票

回収数 572票（回収率 37.8%）

5. 調査結果

別添資料

経営者アンケートは、年2回（3月・9月）実施しております。

なお、本件に関するお問い合わせは、下記担当者までお願い致します。

株式会社三十三総研 調査部（059-354-7102）

担当 中田 丈仁

以上

第 50 回経営者アンケート調査結果 < 概要版 >

厳しい状況にあるものの景況感は改善

【今回のポイント】

景況感を示す D.I.値は4半期連続のマイナスとなるも、6半期ぶりに改善。(p3)

2020 年度下期(2020 年 10 月～2021 年 3 月)の県内景気は、景況感を示す D.I.値が 45.7 と4半期連続のマイナスとなるも、2020 年度上期(2020 年 4 月～2020 年 9 月)の 77.0 から 31.3 ポイント改善した。来期(2021 年 4 月～2021 年 9 月)は D.I.値が 14.4 とマイナス幅がさらに縮小する見込みとなっており、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて厳しい状況にあるものの、経営者の景況感は改善する見通しである。

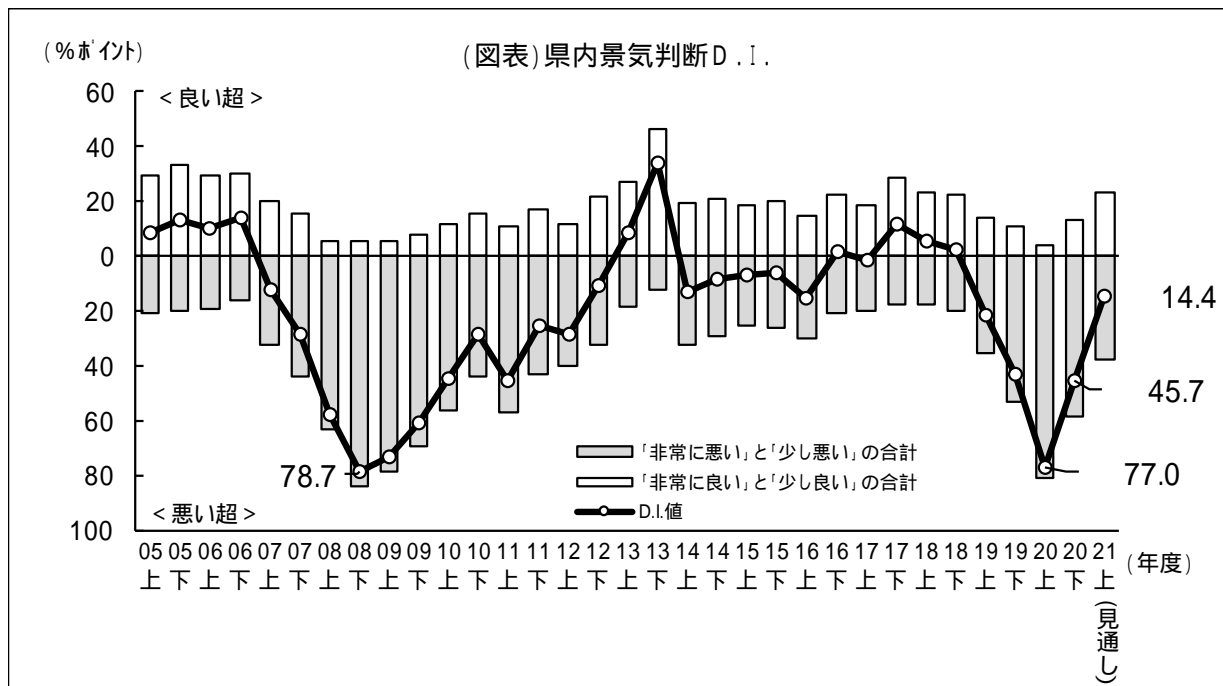
【総括】

景況感を示す D.I. 値(注)は4半期連続のマイナスとなるも、マイナス幅は縮小し6半期ぶりに改善した。先行きについて、2021 年度上期はマイナス幅がさらに縮小する見込みとなっており、経営者の景況感は改善する見通しである。

売上高の D.I. 値は、製造業、建設業、非製造業とも改善した。

利益状況の D.I. 値は、製造業、建設業、非製造業ともに改善した。

設備投資を「実施した」企業の割合が3半期ぶりに増加したほか、雇用状況を「不足」とみる企業の割合が4半期ぶりに増加した。



【 項目別 】

県内景気	D.I.値は4半期連続のマイナスとなるも、マイナス幅は縮小し6半期ぶりに改善した。先行きについて、マイナス幅がさらに縮小する見込みとなっており、経営者の景況感は改善する見通しである。(p3)
業界景気	製造業、建設業は4半期連続、非製造業は6半期連続でそれぞれD.I.値はマイナスとなるも、いずれもマイナス幅は縮小し、製造業は5半期ぶり、建設業は4半期ぶり、非製造業は6半期ぶりに改善した。先行きについて、建設業、製造業、非製造業ともマイナス幅がさらに縮小し改善する見通しである。(p4~7)
自社の業況	製造業、建設業、非製造業とも売上高、利益状況のD.I.値は改善した。先行きについて、製造業は売上高がプラスに転じるほか、利益状況はマイナス幅が縮小し改善する見通し。建設業は売上高、利益状況ともマイナス幅が拡大し悪化する見通し。非製造業は売上高、利益状況ともマイナス幅が縮小し改善する見通しである。(p8~15)
経営判断	設備投資の実施状況をみると、「実施した」企業の割合は3半期ぶりに増加した。雇用状況は、「不足」とみる企業の割合が4半期ぶりに増加した。(p16・17)
2021年度 上期の展望	「プラス要因が強い」とみている企業の割合は前回調査に比べ増加し、「マイナス要因が強い」とみている企業の割合は減少した。「どちらとも言えない」と見ている企業の割合は増加した。(p18・19)
特別調査 ～業務のデジタル化の取組 について～	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のデジタル化の取組について、約半数の企業が概ね10年前と比べて「かなり進んでいる」「まあまあ進んでいる」、残りの半数の企業が「あまり進んでいない」「全く進んでいない」と回答した。 ・業務のデジタル化が進んでいない要因について、デジタル化が「あまり進んでいない」または「全く進んでいない」と回答した企業の約6割が「自社の事業がデジタル化に不向き」と回答した。 ・業務のデジタル化によって改善や高度化を図る経営課題について、「業務の効率化」と回答した割合が最も高く7割を超える企業が回答した。 ・業務のデジタル化に取り組む上で望む支援等について、「補助金・助成金利用などの財務面へのアドバイス」と回答した企業の割合が最も高く約5割の企業が回答した。(p20~22)
経営者の声 (自由記入)	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「同業者の廃業が増えている」(木材・木製品製造業)、「仕事が激減したほか、延期になっている」(鉄鋼業)、「大幅な売上減少が続いている。10~11月にかけてやや回復したものの感染再拡大により再び減少」(旅館業)、「外国人労働者の雇用が難しくなった」(その他のサービス業)といった厳しい経営環境に関する声が多く寄せられる一方、「インターネット販売が増加し、新たなマーケットの可能性を感じる」(食料品製造業)、「自動車のEV化が進み、関連製品の受注が増加している」(その他の製造業)、「自動車の販売方法が変化し、個人向けリースへの関心が高まっていると感じる」(その他の小売業)といったビジネスチャンスの拡大に関する声もある。そのほか、「不況の影響だけでなく、テレワーク普及で会議が減り、飲料品向け自販機の需要減少」(その他の製造業)、「トラックドライバー不足が少し緩和したようだが、ネット通販の拡大により宅配ドライバーが依然として不足」(道路運送業)といった新たな課題に対する声も寄せられた。(p23~26)

【 調査の概要 】

1. 調査対象
三十三ビジネスクラブ会員で、資本金1億円以下の三重県下法人企業1,512先
2. 調査方法
郵送によるアンケート調査
3. 調査時期
2021年2月中旬~3月中旬
4. 回答状況
回収数572票 回収率37.8%(前回45.4%)